

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- 2009年8月調査結果 -



2009年8月28日

業況DIは、依然厳しい水準ながらマイナス幅は6カ月連続で縮小

< 結果のポイント >

8月の全産業合計の業況DIは 59.6と、前月に比べ+4.0ポイントとなり、6カ月連続でマイナス幅が縮小した。しかし、マイナス幅の縮小は、業況判断が「悪化」から「不変」への変更が主因であり、実態は低水準の横ばい状態が続いているとみられる。

業種別では、すべての業種でマイナス幅が縮小した。建設業については、公共工事など経済対策の効果、製造業については、環境対応車の購入助成、エコポイント制度など経済対策の効果や中国向け輸出等の持ち直しの動きが寄与している。一方、卸売業、小売業、サービス業については、マイナス幅が縮小したものの、天候不順による夏物商品の販売不振など売上悪化を訴える声が多い。

仕入単価DIについては、マイナス幅が拡大した。各地からは、卸売業、サービス業を中心に天候不順による農作物高騰で採算が悪化したとの声が多い。資金繰りDIのマイナス幅は縮小しているが、「不変」判断の増加によるものであり、先行きの資金繰り不安は弱まっていないとみられる。売上DI、採算DI、従業員DIについてもマイナス幅が縮小した。

公共工事については、前倒し発注の効果が出てきている一方で、下請けの多い中小・零細企業への波及が十分に進んでいないとの声が多い。また、競争激化による低価格受注や販売単価の低下を訴える声はかなり多いほか、駿河湾の地震、大雨などの外的要因による消費への悪影響を指摘する声が多く寄せられている。

先行きについては、雇用情勢の悪化や設備投資の減退など需要低迷が続き、売上の長期停滞から、継続的な資金繰りが限界に達し、借入金の返済や新規借入れが困難な状況になりつつあるとの声が多くなっている。また、秋以降の新型インフルエンザの感染拡大による景気の下振れを懸念する声も強い。

----- 調査要領 -----

調査期間 2009年8月18日～24日

調査対象 全国の407商工会議所が2589業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業：383 製造業：615 卸売業：235

小売業：737 サービス業：619

調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況及び業界として当面する問題等
DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

＜ 産業別の特徴的な動き ＞

8月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、59.6と、前月に比べ+4.0ポイントとなり、6カ月連続でマイナス幅が縮小した。しかし、マイナス幅の縮小は、業況判断が「悪化」から「不変」への変更が主因で、低水準の横ばい状態が続いているとみられる。

産業別にみると、業況DIのマイナス幅は、すべての業種で縮小した。

建設業、卸売業、サービス業では、天候不順による農作物高騰や燃料価格、一部の建築資材の価格上昇などから仕入単価DIの上昇感が強まった。

また、売上の長期低迷などから小売業、サービス業の従業員DIの過剰感が強まっている。各地からは、低水準の売上が続き、営業時間の短縮など雇用維持が困難な状況になりつつあるという声が増えている。

さらに、設備投資については、平成21年度計画を前年度実績より減額する企業が、製造業、建設業を中心におよそ半数を占めており、当面、設備投資への慎重な姿勢が続くとみられる。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値(前月比) ↑ 好転 ↓ 悪化

【建設業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	↑	↓	↑

- ・「公共工事の前倒し効果があり、現在、発注がピークを迎えている」（一般工事業）
- ・「公共工事前倒し効果で売上は回復基調にあるが、競争が激しく収益性の向上が見込めない」（土木工事業）
- ・「住宅着工数は前年度より4～5%程度落ち込み、厳しい状況」（建築工事業）

【製造業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

- ・「家電部品製造関連では、エコポイント制度の影響による冷蔵庫の買換需要があり順調に推移」（自動車・同附属品製造業）
- ・「経済対策の効果で小型車が好調。売上は下げ止まりつつある。設備投資については今の時点では考えられない」（金属加工機械製造業）
- ・「操業時間調整が継続中で、雇用環境も厳しい」（一般産業用機械製造業）

【卸売業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	↑	↓	↑

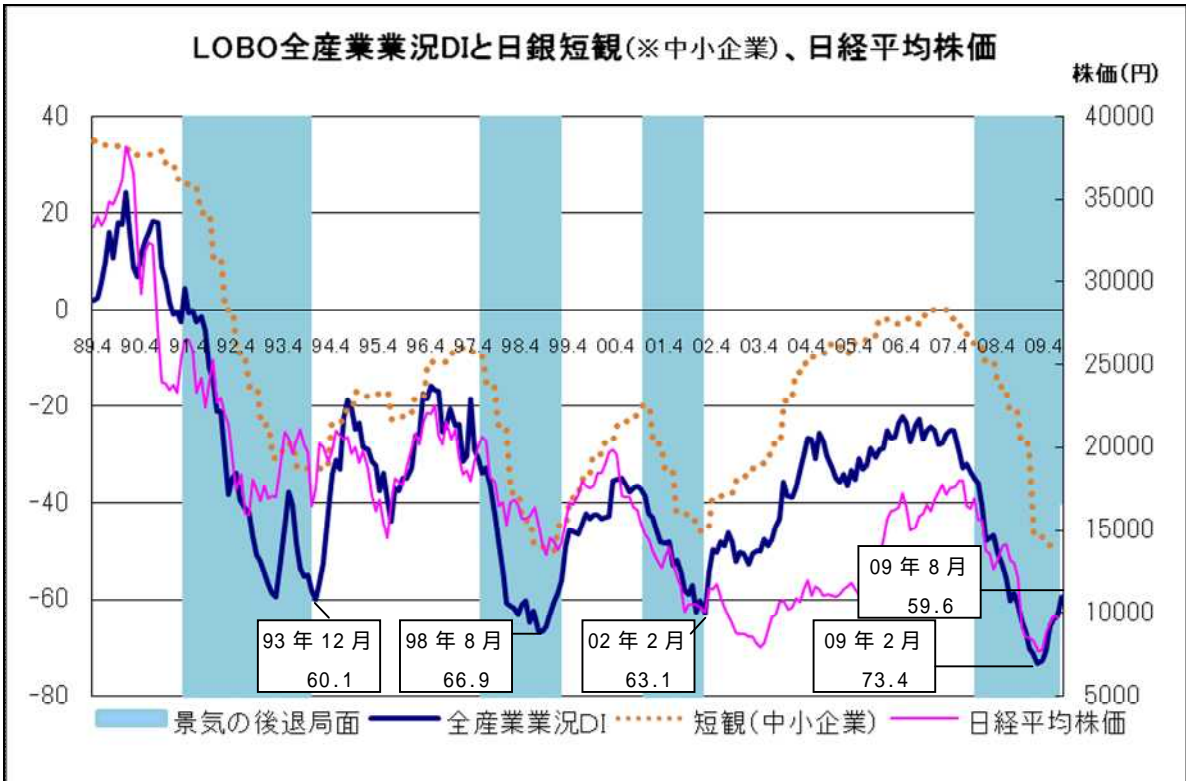
- ・「低価格製品の売上が多くなっている」（各種商品卸売業）
- ・「地震による東名高速道路閉鎖の影響で売上減」（農畜産水産物卸売業）
- ・「売上は前月比で横ばい（L字）と低水準が続く」（鉱物金属材料卸売業）

【小売業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	↑	↑	↓

- ・「高速道路料金値下げの影響によりお盆期間はお土産関連の売上が2桁アップした」（百貨店）
- ・「天候不順で苦しい夏商戦」（その他の小売業）
- ・「資金を借りたくても返すあてがない状況」（商店街）

【サービス業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	↑	↓	↓

- ・「アクアライン料金値下げ効果があったが、客単価は低い」（食堂・レストラン）
- ・「天候不順の影響により売上減少。野菜類の仕入れ単価も上昇」（他の一般飲食店）
- ・「新型インフルエンザの影響で利用者が減少した」（旅館）



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

8月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、59.6となり、前月に比べると+4.0ポイントと、6カ月連続でマイナス幅が縮小した。ただ、マイナス幅の縮小は、業況の悪化から不変への変更が主因となっている。業況は一旦底を打ったとみられるが、水準は依然厳しい。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、すべての業種で縮小した。

向こう3カ月(9月~11月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が46.3と、昨年同時期の先行き見通し(56.9)に比べて10ポイント以上マイナス幅が縮小している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が縮小している。

業況DI(前年同月比)の推移

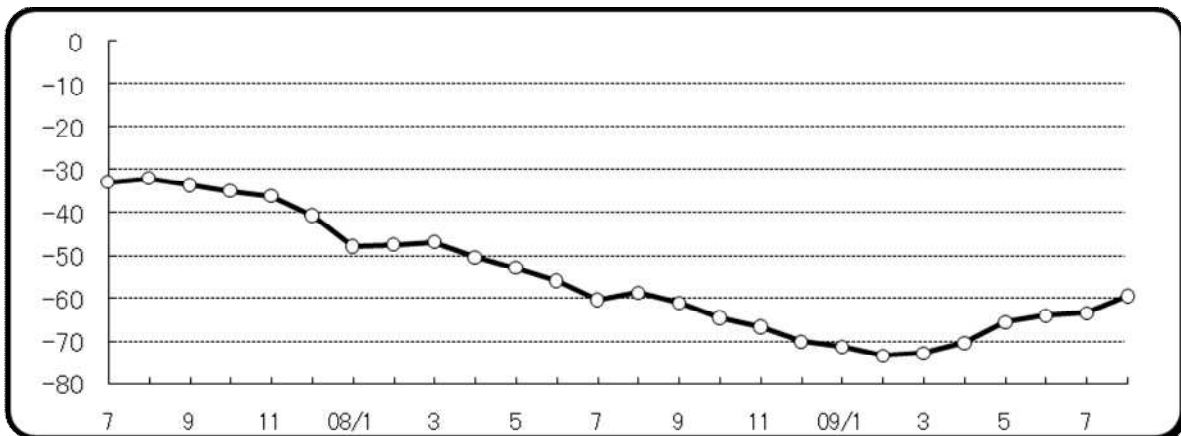
	09年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	72.8	70.4	65.7	64.2	63.6	59.6	46.3 (48.4 / 56.9)
建設	72.1	70.9	71.6	66.7	61.2	56.3	46.9 (50.0 / 65.6)
製造	73.5	74.4	69.1	70.6	65.7	62.9	42.5 (44.0 / 52.6)
卸売	70.5	66.7	66.2	61.8	65.5	61.1	45.8 (48.9 / 52.3)
小売	75.5	70.9	66.2	63.4	65.1	60.7	50.2 (54.5 / 58.7)
サービス	70.2	66.9	57.7	57.3	60.3	56.3	45.4 (44.7 / 55.5)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI

()内左側(網かけ)は前月7月の先行き見通しDI

()内右側は昨年8月の先行き見通しDI

(業況DI(全産業・前年同月比)の推移)



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、 57.9となり、前月に比べると +3.7ポイントと、依然厳しい水準ながら5カ月連続でマイナス幅が縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は、すべての業種で縮小した。

向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月ベース)が 41.2と、昨年同時期の先行き見通し(45.9)に比べ5ポイント程度マイナス幅が縮小している。

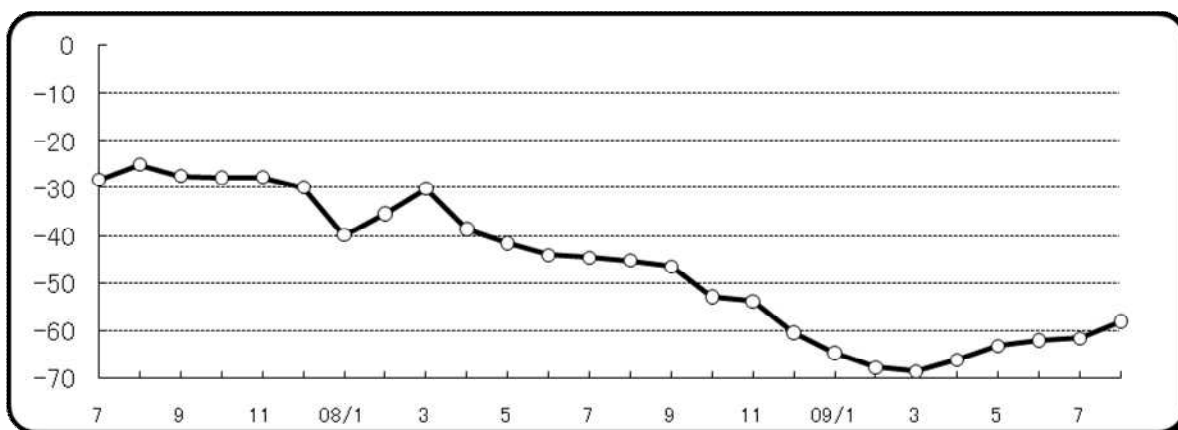
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、小売業を除く、他の4業種でマイナス幅が縮小している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	09年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	68.5	66.2	63.2	62.0	61.6	57.9	41.2 (41.9 / 45.9)
建設	64.8	68.2	69.3	60.3	54.2	52.0	38.6 (36.7 / 53.4)
製造	68.7	70.3	68.2	65.9	65.0	62.6	33.2 (34.9 / 39.0)
卸売	68.5	60.9	53.8	61.1	60.0	56.9	28.5 (39.3 / 40.9)
小売	72.1	65.9	60.8	64.6	66.7	61.4	50.2 (54.0 / 48.4)
サービス	66.7	63.2	60.5	56.2	57.3	52.7	46.0 (39.5 / 47.1)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
 ()内左側(網かけ)は前月7月の先行き見通しD I
 ()内右側は昨年8月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算DIは、57.0となり、前月に比べると+3.8ポイントと、依然厳しい水準ながら6カ月連続でマイナス幅が縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は、すべての業種で縮小した。

向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算DI(今月ベース)が44.1と、昨年同時期の先行き見通し(54.5)に比べて10ポイント以上マイナス幅が縮小している。

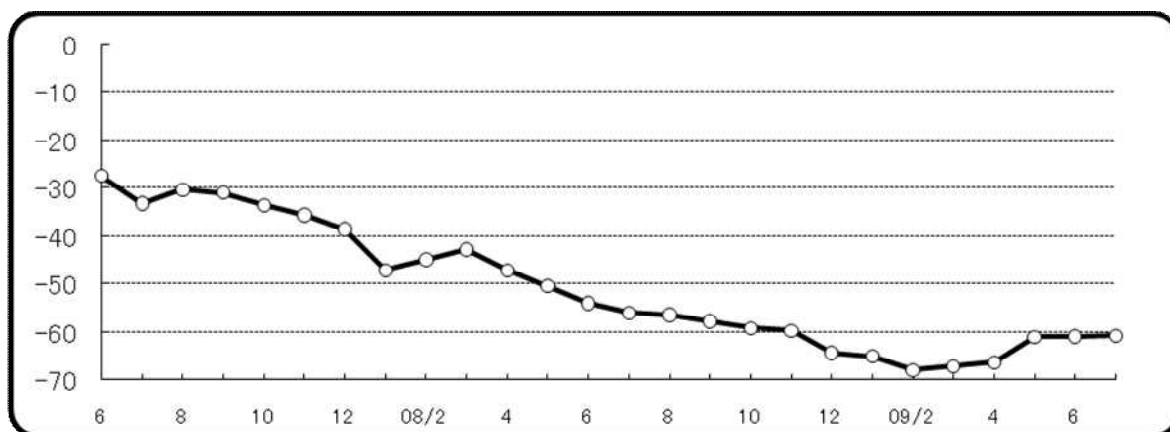
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が縮小している。

採算DI(前年同月比)の推移

	09年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	67.2	66.3	61.0	60.9	60.8	57.0	44.1 (45.1 / 54.5)
建設	67.0	70.5	64.7	67.1	61.1	56.8	42.5 (45.1 / 64.0)
製造	71.6	73.6	68.2	68.3	65.8	61.8	42.2 (43.6 / 54.1)
卸売	60.3	56.9	53.8	56.3	56.4	54.2	35.4 (34.5 / 49.7)
小売	67.4	64.4	59.3	58.4	62.0	57.7	48.8 (52.9 / 50.1)
サービス	65.2	61.9	56.0	53.3	55.9	52.4	45.1 (41.8 / 55.7)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
 ()内左側(網かけ)は前月7月の先行き見通しDI
 ()内右側は昨年8月の先行き見通しDI

《採算DI(全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	09年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	48.1	46.9	43.1	42.7	44.7	39.9	32.8 (35.7 / 37.9)
建設	57.7	56.4	51.3	50.9	47.9	43.6	36.1 (41.7 / 52.7)
製造	53.2	57.3	52.7	56.6	53.3	48.7	38.9 (38.8 / 36.8)
卸売	43.8	41.2	40.1	35.1	38.2	38.0	24.3 (28.2 / 31.0)
小売	40.3	39.2	34.8	32.9	38.0	35.9	29.4 (33.1 / 33.9)
サービス	46.8	40.7	38.2	35.9	43.5	33.4	31.4 (34.6 / 36.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、39.9となりマイナス幅が縮小した。産業別にみると、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

【先行き見通しD I】全産業合計はマイナス幅が縮小する見通し。産業別にみると、すべての業種でマイナス幅が縮小する見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	09年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	25.7	15.4	13.6	11.6	9.5	10.5	12.8 (11.8 / 52.9)
建設	29.6	19.7	22.3	18.5	15.9	16.8	13.3 (18.7 / 58.1)
製造	26.8	15.6	12.3	10.1	9.1	6.1	13.7 (10.2 / 54.8)
卸売	17.2	18.8	11.8	8.3	3.6	1.4	5.6 (4.3 / 45.0)
小売	23.9	11.4	9.8	7.1	7.6	6.9	9.9 (9.6 / 52.4)
サービス	27.9	15.5	14.4	15.2	13.1	19.4	18.0 (14.7 / 51.1)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは10.5となり、上昇感は強まっている。産業別にみると、建設、卸売、サービスの3業種で上昇感が強まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が強まる見通し。産業別にみると、製造、卸売、小売の3業種で上昇感が強まる見通し。

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月7月の先行き見通しD I

()内右側は昨年8月の先行き見通しD I

従業員D I（前年同月比）の推移

	09年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	20.0	21.9	21.2	18.7	21.1	19.4	15.7 (16.3 / 8.5)
建設	34.5	34.5	39.5	36.5	37.4	25.4	24.2 (28.8 / 29.6)
製造	28.6	33.0	31.7	28.4	32.3	29.2	19.8 (19.0 / 5.9)
卸売	20.7	23.9	17.9	17.4	21.7	19.4	19.4 (14.4 / 14.8)
小売	8.4	11.8	10.7	9.0	10.5	13.3	11.0 (11.6 / 2.8)
サービス	14.7	13.6	11.9	8.3	11.0	12.3	9.7 (11.7 / 1.1)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

- 【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは、 19.4となり過剰感は弱まった。
産業別にみると、建設、製造、卸売の3業種で過剰感が弱まった。
- 【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が弱まる見通し。産業別にみると、横ばいの卸売を除く、他の4業種で過剰感が弱まる見通し。

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
()内左側(網かけ)は前月7月の先行き見通しD I
()内右側は昨年8月の先行き見通しD I

雇用情勢の悪化

依然低調な受注、売上など業況悪化の影響から、雇用の過剰感に関する声が寄せられている。製造業からは、「厳しい状況が続き、従業員の過剰状態が続いている」（赤穂・金属加工機械製造業）「操業時間調整が継続中で、雇用環境も厳しい」（新居浜・一般産業用機械製造業）「求人を予定する企業が激減」（唐津・その他の機械製造業）「稼働日は週3日と休業日が増加」（豊橋・自動車・同附属品製造業）「民間航空機関係は受注が減少し、採算は厳しい状況。コストダウンと雇用の過剰が大きな問題」（各務原・他の輸送用機器具製造業）小売業からは、「営業時間を短縮する店が増えた」（福山・商店街）サービス業からは、「受注契約価格は下がっても顧客を失うことがないよう、従業員の質の向上のため今まで以上に研修会等を開きモチベーションとスキルのアップに尽力」（京都・建物サービス業）「6月に申請した雇用調整助成金の入金を待ち構えている」（深谷・旅館）などの声が寄せられている。

経済対策の効果

公共工事の前倒し、環境対応車の購入助成、エコポイント制度など政府が打ち出した経済対策の効果を指摘する声が寄せられている。建設業からは、「公共工事の前倒し発注が多くなった」（倉吉・一般工事業）「公共工事は一部発注が出始めたが依然低調」（柳井・建築工事業）「経済対策の効果が徐々に始まっている」（岩見沢・建築工事業）製造業からは、「高速道路料金値下げ効果で、売上は増加傾向」（水戸・パン・菓子製造業）「エコポイント制度の影響で売上に回復の兆し」（さいたま・ブリキ缶等製造業）小売業からは、「プレミアム商品券の波及効果を期待」（横須賀・商店街）「エコポイント制度の影響で家電の販売が好調」（新宮・商店街）などの声が寄せられた。

一方、「公共工事の早期発注に期待」（徳島・一般工事業）「公共工事がまったくない」（直方・一般工事業）といった声もあった。

広がる低価格化

採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下等について訴える声が多く寄せられた。建設業からは、「低価格入札が続き厳しい状況」（札幌・一般工事業）製造業からは、「低価格志向が進んでいるが製造コストは変わらないため下請けにそのしわ寄せがきている」（酒田・織物外衣製造業）「若者向けの低価格住宅が建ち始め、地元業者が苦戦」（山形・製材木製品製造業）小売業からは、「通常価格より相当低い価格で販売しているが売れない。必要なものしか買わないという消費行動が目につく」（札幌・百貨店）「消費者の節約志向が強まり衣料品や高額商品の売上が不振」（豊橋・百貨店）「客単価のダウンが続いている。夏期（繁忙期）による値上げは通じない」（銚子・旅館）といった声が寄せられた。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年 3月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	雇用情勢の悪化
4月	受注の大幅な減少	雇用情勢のさらなる悪化	先行きに対する期待感
5月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	新型インフルエンザの影響
6月	雇用情勢の悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化
7月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化
8月	雇用情勢の悪化	経済対策の効果	広がる低価格化

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。本文中の（ ）内は、（地名・業種）を示す。

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、中国、四国を除いた6ブロックでマイナス幅が縮小している。特に、東北では、小売業を中心にマイナス幅が縮小した。一方、北海道では卸売業を中心に、中国では製造業を中心にマイナス幅が拡大した。

ブロック別の向こう3カ月（9月～11月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべての地域でマイナス幅が縮小している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	09年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全 国	72.8	70.4	65.7	64.2	63.6	59.6	46.3 (48.4 / 56.9)
北 海 道	60.7	62.9	58.8	56.4	50.6	52.3	52.3 (43.4 / 57.8)
東 北	71.9	72.7	64.6	66.9	65.9	56.7	44.5 (50.4 / 63.5)
北陸信越	73.3	70.7	58.7	60.1	69.0	66.7	46.1 (47.6 / 51.9)
関 東	73.8	71.9	67.4	66.7	63.8	56.5	43.5 (49.7 / 57.2)
東 海	70.3	77.0	75.4	70.1	67.2	62.1	42.8 (51.6 / 54.7)
近 畿	77.5	74.1	74.2	70.3	67.8	62.0	49.5 (53.6 / 56.8)
中 国	81.2	74.1	77.2	71.9	69.3	71.3	47.5 (40.4 / 56.0)
四 国	66.4	49.6	47.7	49.2	50.4	50.4	39.8 (40.5 / 61.2)
九 州	71.8	71.6	60.9	58.9	61.1	59.0	54.3 (50.9 / 54.8)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

() 内左側（網かけ）は前月7月の先行き見通しD I

() 内右側は昨年8月の先行き見通しD I

【ブロック別・特徴的なコメント】

産 業	概 況
北海道	「低価格受注が多く厳しい状況」(一般工事業)「受注量は増加傾向」(農業用機械製造業)「消費低迷が続く、先行きも期待薄」(各種商品卸売業)「エコポイント制度の効果によりテレビの売上が好調」(商店街)「業界内での価格競争が激しく厳しい状況が続く」(洗濯業)
東北	「生産は回復に転じつつある」(電子部品製造業)「売上の低迷が続いた場合、さらなる人員削減を検討する必要がある」(農畜産水産物卸売業)「高速道路料金値下げの影響により帰省客が増えお土産の売上が増加した」(百貨店)「利用客数は土日はよいが、平日が減少している」(旅館)
北陸信越	「公共工事の前倒し発注により入札件数は増加」(一般工事業)「消費減退を打破するような従来品の改良や新製品の開発などに取り組みたい」(金物類製造業)「天候不順により夏物商品が苦戦」(各種商品卸売業)「銀行の撤退により人通りが少なくなった」(商店街)「設備投資の計画はあるが先行きが不透明なため、迷っている」(食堂・レストラン)
関東	「採算割れの仕事が続いている」(塗装工事業)「在庫調整は終了したが、依然先行きは厳しい。資金繰りが悪化し、運転資金を借りたくても返済計画が立てられない」(金属加工機械製造業)「生コン等の需要は減少傾向で、売上・採算ともに悪化」(建築材料卸売業)「8月11日の地震の影響で防災グッズの売上が増加」(百貨店)「景気回復を待つのではなく、現状の売上で利益の出る体制を整備している」(個人教習所)
東海	「公共工事の前倒し発注により売上の減少を抑えられた」(一般工事業)「金型の注文が増え、売上も上向きつつある」(工業用プラスチック製品製造業)「個人消費の不振が続いている」(家具・建具等卸売業)「消費者の買い控えに加え、天候不順により来客数が減少」(商店街)「輸送量の増加が見込めない。県内の営業用トラック台数が3,000台減少した」(その他サービス業)
近畿	「公共工事は厳しい状況が続いている」(一般工事業)「繊維関係の機械の設備投資は当分見込めない」(繊維機械製造業)「消費者の買い控えにより高額商品が売れない」(農畜産水産物卸売業)「食料品は他店との競争が激しく厳しい状況。衣類は夏物が低調。家電はテレビが好調、エアコンは不調。天候不順により夏物商品が全般的に不調」(百貨店)「各企業ともに本年度のIT設備投資をかなり控えている」(情報処理・提供サービス業)
中国	「公共工事の発注は前年に比べ多かったが低価格受注」(一般工事業)「耐火物の生産量、出荷量ともに前年同月比では30～40%の大幅減であるが、前月比では微増」(耐火物製造業)「売上が下げ止まった業種もあるが、下がり続けている業種もある」(農畜産水産物卸売業)「安売り店との競合により利益率が悪化」(百貨店)「悪天候の影響により8月前半は売上が大きく減少した」(食堂・レストラン)
四国	「県や市の工事が激減している」(土木工事業)「10月までの受注は横ばいの見通し。11月以降の受注増を期待」(その他の機械製造業)「漁獲量が減り注文に対応できない状況」(食料・飲料卸売業)「冷夏の影響で夏物処分が進んでいない」(その他の小売業)「天候不順のため例年よりビールが売れないなど売上が減少。また、野菜類の仕入れ単価も上昇」(その他の一般飲食店)
九州	「売上は増加傾向にあるが採算は低下」(電気工事業)「年末にかけて仕事の減少を予想」(産業用電気機械器具製造業)「中元商戦は企業の経費削減と天候不順で減少」(百貨店)「飲食関係は好調に推移。一方、衣料品の売上不振の長期化を懸念」(その他の小売業)「原子力発電所の定期点検工事に伴う作業員の利用が増加」(旅館)